



たった一人のためにでも、世界をつなげたい。

CWS JAPAN

Church World Service

2023.7.1 - 2024.6.30

ANNUAL REPORT 2023-2024

We want to connect the world,
even if it's just for one person.



Overview 2023-2024

2023年度総括



紛争や大規模災害が世界的に発生・継続し、タイムリーな緊急支援を行うとともに、度重なる災害リスクを削減するための防災力向上事業を展開しました。CWS Japanが持つ世界的なネットワークも駆使し、迅速かつ将来の災害リスクを削減する活動に重きを置き、事業を立案できました。現地パートナーとの良好な関係性を基盤に、中期計画も見直し、現行の事業においてはおおむね計画通りに事業を実施できました。アフガニスタンでは、引き続き複合災害リスクに晒されている人々へ緊急人道支援を行うとともに、度重なる豪雨災害の被災を軽減できるよう防災力向上支援を継続しています。その取り組みによって、2024年3月に発生した豪雨災害の際も、事業対象地域では被害を軽減し、死者を出さずに復興に専念

できました。インドネシアやフィリピンでは、現地のイノベーターが主導する防災課題の解決をさらに促進し、世代を超えた協働が促進され、レジリエンス強化につながっています。突発的な災害事象が起きた際に取り残される人々への平時からの支援も強化しています。日本では地域社会と難民・庇護希望者をつなぎ、首都直下地震の際などに取り残される人を減らす努力を続けています。また、日本のアニメ業界と海外にいる難民をつなぎ、技術移転やアニメ制作への関与機会の創出も開始しました。課題はたくさんありますが、必ずレジリエンスを高める方法はあると信じてさまざまな取り組みを事業化してきました。国内外に有するさまざまなネットワークや仲間たちとの関係性を主軸に、引き続きこの歩みを続けてまいります。

事務局長あいさつ



事務局長

小美野 剛

Takeshi
Komino

皆さまの温かいご支援により、私たちは今年も多くの人々の生活に寄り添い、被災リスクを減らしながら緊急・人道支援ニーズに対応することができました。心より感謝申し上げます。気候変動の影響もあり、世界各地で頻発する気象災害が食料危機や度重なる豪雨災害につながり、人々の生活を脅かしています。そのため、より安全・安心な国際社会へ寄与すべく、日本の防災・減災の知見や技術を積極的に共有してまいりました。地理特性を考慮した分析によってリスクを正しく理解し、避難を始めとする早期行動に結び付けることによって救える命は多くあると信じています。また、「レジリエンスは人々の生き様がもたらす」ことを鑑み、事業を超えたムーブメントを起こしていけるよう、異なる分野や国で活躍する仲間たちとビジョンをともにしながら歩みを進めています。今まで解決されてこなかった障壁にも積極的に取り組み、常に現地・現場のステークホルダーを中心に据え、ローカライゼーションを事業の立案から日々の意思決定まで浸透させるよう組織文化をつくっています。より安全・安心な社会に向けて、そして、救える命をしっかりと救える社会になるために。今後も人道支援、防災力向上支援、コレクティブ・インパクトの考えを大事にしながら活動してまいります。引き続き皆様のご理解ご支援を何卒よろしく願いいたします。

CWS JAPANとは

災害時に誰一人取り残される人々のいない社会の実現へ

CWS Japanは国内外で災害対応・防災支援に取り組むNGOです。2011年の東日本大震災を契機に東京事務所を開き、本格的に日本を拠点とした活動を開始しました。

わたしたちの目標

地域の人々が自ら持つ社会資源を育み、外部の知見や資源を効果的に使うことで、災害時に支援の手が届かず取り残される人々のいない社会の実現を目指します。そして、宗教、人種、国籍などにかかわらず、全ての人の人権が尊重され、平和で安全に暮らすことができるアジア太平洋地域と、国際社会の実現を目指します。

目指す社会を実現するためにとるアプローチ

- 1 地域が持っている力を引き出します
- 2 学んだ教訓を地域と共有、国内外へ発信します
- 3 パートナーシップの構築による相乗効果を生み出します

活動の3つの軸

コレクティブ・インパクト

CWS Japanが取り組む社会課題について、もっと多くの方々に知っていただくためにイベント・SNS等での情報発信をしています



緊急・人道支援

いち早くそして持続的な復興を実現すべく活動しています

防災力向上・コミュニティ開発支援

地域の災害対応能力を向上させることを目的としています

1 in アフガニスタン 食料安全保障と防災力向上事業

事業概要 緊急人道支援から、地域の防災力向上に向けて

内戦や政変が続くアフガニスタンでも、厳しい冬や洪水、干ばつなどの自然災害のリスクの高い山岳地帯のバーミヤン県にて、2023年11月から支援を開始。帰還民を含む住民の生活状況の改善と災害リスクの軽減を目的として、食料調達のための現金を給付したことに加え、砂防ダムや防護壁、浸透池などの簡易防災インフラの整備と防災啓発研修を実施しました。インフラの整備では、地域の住民を積極的に登用し、労働機会を提供することで、住民の現金収入を増やすことにも寄与しました。

砂防ダムの建設により、地域の防災力が向上し、住民は現金収入を得ることができた。
@CWSA



成果

- ・2023年10月までに364名が砂防ダム建設などの災害リスク軽減工事に携わり現金収入を獲得。この取り組みは12村で実施、11月以降、引き続き新たに14村を対象に同様の取り組みを行なっている。
- ・510世帯に食料調達のための現金を配布
- ・2022年から地域住民を登用した簡易防災インフラの整備を実施したことで、2024年5月および6月に発生した鉄砲水が発生した村では、建設した砂防ダムおよび防護壁によって、住民の家屋や農地、道路インフラなどへの被害が大幅に減少した。

comment 担当：G.I

目の前にある食料危機に対する緊急支援だけでなく、同時に将来の災害に備える地域の「力」を引き出す応援をしています。



地域の災害リスクを示したハザードマップを学び、防災および災害対応に関する正しい知識の啓発に務めた。@CWSA



簡易インフラ建設に携わったマールトさんは、自らの手で将来発生するかもしれない災害から村を守ることができると喜んでいました。@CWSA

2 in ケニア 豪雨による洪水

2024年3月から6月にケニアで発生した豪雨による洪水で315名が亡くなり、29万人以上が避難を強いられました。特にタナ・リバー郡では被害が深刻で、多くの避難所が設置されました。CWSケニア事務所の支援を側面支援し、610世帯に食料や種子を提供するなどの緊急支援を

実施しました。今後は食料確保や生活環境の改善、心理的サポートなど多岐にわたる支援が必要とされています。また、気候変動によって度重なる洪水・干ばつの影響が顕著になっているので、日本の知見も活かし、長期的な視点での防災・減災対策の検討も同時に進めています。

3 in アフガニスタン パキスタン帰還民支援

事業概要 パキスタンからの帰還民を支える

不安定な政情から2023年後半からパキスタンに逃れた難民の状況は特に悪化し始めました。そのため急増したアフガニスタンに帰還する人の多くは、十分な準備もなかったため、アフガニスタン帰還後の生活も不安定で見通しが立ちません。そこで帰還民が多く集まるパキスタン国境に近い東部のナンガルハル県にて、当面の食料を確保するための支援を2024年4月より実施しました。

避難先の急速な政情変化により、慌てて帰還したアフガニスタン難民の一家であったが、支援を受け、帰還後の当座の生活は安定の兆しをみせている。@CWSA



成果

- ・パキスタンから帰還したアフガニスタン難民150世帯(1,110人)に対して、3ヶ月間にわたり食料を調達するために必要な現金を供与
- ・支援を受けた全ての世帯の食事状況が改善

comment 担当：G.I

戦争と政治の影響を逃れた人々は、避難先であるパキスタンでも、帰還後のアフガニスタンでも脆弱な立場に置かれています。寄り添った支援を今後も続けていきます。



現金給付の様子。女性が世帯主の家族など脆弱性の高い人びとを優先して支援した。@CWSA



給付された現金で食料を購入したサブ・アリさん一家。育ち盛りの子どもたちにとって、食事は特に重要。@CWSA

4 in ミャンマー ミャンマーでの支援

混沌を極めるミャンマーの人道状況に対し、影響を受けているコミュニティや避難民に対して、食料などの支援を始め、教育支援、安全なシェルターの提供及びケースマネジメントによる支援を行っています。国内外において、制約

が多い環境下ではありますが、紛争の影響を受けているコミュニティを主軸に置き、効果的な支援を常に模索し、実施しています。早く平和な社会が訪れることを切に願っています。

5 in 日本 公的支援にアクセスしにくい難民・移民のための伴走支援事業

事業概要 困難な状況下にある難民・移民に寄り添う

不安定な在留資格、日本語能力不足、心身の健康問題、高齢化などの理由によって就労が制限され、生活困窮し、公的支援にアクセス困難な難民・移民の生活相談を受け、アウトリーチ支援活動を実施しました。外国人相談会の開催、食品・生活物資配布、入管・医療機関への同行などのケースワーク、また緊急性の高いケースに対しては経済的支援を行いました。



ワールド・バザール @CWS Japan

成果

- ・緊急支援+伴走支援というケースマネジメント：支援対象者数51名
- ・要支援者から協働パートナーへ：難民・移民とのイベント（ワールド・バザール）協働開催
- ・地域社会資源との関係性構築：対象地域内の宗教施設、民間支援組織・事業所、外国人オーナー飲食店・商店との連携協力

comment

担当：Y.M

イベント型の外国人相談会開催から、アウトリーチ型支援に切り替え、要支援者ファーストのケースワークに取り組みました。各相談を解決に導くまでに膨大な時間・労力・資金がかかるようになったことから、緊急支援キャンペーンを実施し、多くのご支援により活動を継続していくことができました。

6 in 日本 難民・移民・市民が出会い・つながるコミュニティ・カフェ事業

事業概要 レジリエントな多文化・多世代共生型の地域コミュニティづくりを目指して

多国籍地域において、市民・難民・移民・支援者が出会い、つながる場づくりを目指して、コミュニティ・カフェを月2回オープンしました。さまざまなイベント開催と同時に、難民や地域の移住労働者に対して日本語学習支援を行い、地域行事にも参加。地域で顔が見える関係を構築し、この活動を通して、有事に取り残される人々がいないレジリエントな多文化・多世代共生型の地域コミュニティづくりを目指しています。



カフェイベント企画・ネパールぎょうざ モモ教室 @CWS Japan

成果

- ・地域内の潜在的な要支援者を特定
- ・各種交流イベントの開催により、一般市民・地域住民にコミュニティ・カフェ活動の認知向上
- ・食品バウチャー配布を通して、地域内の外国人商店主との関係性を構築（協力店4店舗）
- ・地域社会資源（外国人商店主、商店街振興組合、自治会、宗教関連施設、支援団体、福祉事業所、行政機関等）との関係構築

comment

担当：Y.M

多国籍タウンである大久保という地域性から、多文化共生のための交流を目指してコミュニティ・カフェ@大久保を2023年4月から開始しました。その後、深刻化する外国人住民の高齢化問題を知る中で、多世代交流の視点も新たに加わりました。

7 in アフガニスタン 防災力向上に向けた人材育成事業

事業概要 防災インフラ整備及び技術移転・防災人材育成



静岡県での本邦研修の様子
©CWS Japan

防災インフラ整備計画・設計の技術移転、設置工事の他、防災ボランティアの育成に取り組まれました。ハザード・防災マップの作成、防災計画作りの技能をもった人材輩出を持続的にできる体制を目指してカブール大学内に拠点を設置、技術研修を行っています。また、高度防災人材の育成を目的に防災セミナーを開催。事業成果を国内で広く周知し、カブール大学内での防災専門コース設立に向けた支援も行っています。

- 成果**
- ・インフラ整備による直接裨益者数:4,750人
 - ・研修実施による直接裨益者数:126人
 - ・防災インフラ設計技術移転の直接裨益者:18人
 - ・ナショナル防災セミナー実施による直接裨益者数:60人

comment コロナ禍を経て4年ぶりに、本事業を担当する現地のスタッフと防災関係者を日本に招き、2024年1月に技術研修を開催。現場を見学し、専門家との対話を通して日本の地形・環境に適応した防災インフラ整備技術を学びました。

担当: Y.H/Y.M

8 in パキスタン シンド州洪水被災地区の農業生産性とレジリエンス強化事業

事業概要 地域主導の災害復興と防災の取り組みを後押し



地域コミュニティと建設予定地について確認©CWS Japan

2022年にパキスタン国土の3分の1を水没させた洪水の被害が特に大きかったシンド州ウマルコート郡の農村の復興と、将来に備えた防災力強化を支援しました。

- 成果**
- ・6村を対象に灌漑用水路6本、溜め池12ヶ所を建設する計画を進行中
 - ・住民を対象とした災害に強い農法研修や、地域の災害対応を担当する行政官を対象としたハザードマップ作成の研修を実施予定※2024年3月に開始した事業のため、具体的な成果はこれからです

comment インダス川下流では水害が頻繁に発生します。地域が主体となった災害からの復興と防災の取り組みをCWS Japanでは後押ししています。

担当: G.I

9 アニメーションを通じた難民支援事業

事業概要 アニメの力を難民支援の現場へ



スキルコーチング実施中
©CWS Japan

日本のアニメ業界とCWSJapanが協力し、難民や避難民の方々にアニメ制作のスキルを提供することで、彼らが自立し、未来を築く手助けをすることを目指しています。作品作りを通し、難民に技術指導・雇用の創出・自立支援を行うと同時に、日本のアニメ制作現場の慢性的な人手不足解消への寄与も目指します。

- 成果**
- ・現在はパイロット事業として実証中
 - ・研修を受けた難民の方々は持続的にアニメの制作プロセスに関わり、学びを深化させている。恒常的なスキルアップを通じ、世界中どこからでも収入機会の創出が継続して可能になるよう目指している。

comment 難民の方々が置かれている状況は厳しいものですが、アニメ制作を通じて将来の夢を感じ、頑張っている姿を見ると心から応援したくなります。

担当: T.K

10 in 日本 秋田豪雨災害緊急支援2023

事業概要 ACT Japan Forumとの協働: 秋田豪雨災害緊急支援

CWS Japanが日本キリスト教協議会(NCC)と共同事務局を務めるACT Japan Forumは、国内における緊急災害人道支援を行うための全国規模の教会ネットワークです。2023年7月に発生した秋田豪雨災害によって床上浸水し、家電製品を廃棄した世帯のうち、困難な生活状況の被災者家庭を地元のNPO法人あきた結いネットを通して募り、ヒアリング実施後、各世帯に戸別訪問し、電化製品(洗濯機、冷蔵庫、電子レンジ、ストーブなど)を配布しました。



家電製品を配布した外国籍の被災者世帯©Act Japan Forum

- 成果**
- ・本取り組みにより、以下の被災者世帯に対して新品の家電製品を配布
 - ・単身高齢者 15世帯/高齢の生活困窮世帯 11世帯/障がい者 3世帯/ひとり親家庭 1世帯/外国籍 2世帯

comment 災害は発生場所と時期が予測がつかず、全国規模のネットワークと連携体制が必要不可欠です。ACT Japan Forumは災害対応と防災に対応するために、国際的なキリスト教連合体であるact allianceの国別フォーラムとしてNCC内に設置された団体で、CWS Japanも参画しています。

担当: Y.M

11 in フィリピン・インドネシア Community Led Innovation Partnership(CLIP)プログラム

事業概要 未解決の防災課題をコミュニティとともに解決する

CLIPは防災・減災に関わるコミュニティ発の新しい取り組み(イノベーション)を支援するプログラムで、英国政府の資金支援を受けて2020年に立ち上がりました。フィリピン・インドネシア・グアテマラ・南スーダンの4か国でローカル団体やコミュニティが主体となって取り組むプログラムです。CWS Japanはアジア地域のコーディネーターとしてフィリピン・インドネシアでの取り組みを支援しています。



パートナー団体がプログラム目標の達成に向けて話し合う年次ワークショップ(2024年)の様子©CWS Japan

- 成果**
- ・4か国で約100の事業が生まれている。
 - ・コミュニティ内外の資金、人的リソースを最大限活用できるよう、さまざまなワークショップやコミュニティ間の学び合いを実施した結果、メディアを通じた社会的認知の高まり、大学の技術協力、地方政府からの予算獲得など、多機関との連携や制度化につながる事例が増えている。
 - ・コミュニティが成功体験を積み、「自分たちでできる」と自信を持つことで持続化への道筋が見えはじめている。

comment プログラムの終盤を迎え、当事者の主体性と創造性を大事にしたアプローチが人道支援において主流化するよう、インパクトを可視化して伝える手法を開発すべく、ほかのCLIPパートナーと試行実践を重ねています。

担当: I.U

CWS JAPANはひとつの団体では成しえない社会的インパクトの創出のために、関係するセクターや業界におけるネットワーキングを重視しています。



12 in アフガニスタン

西部地震被災者支援

事業概要 地震被災者に食料と安全な住居の確保を

2023年10月にアフガニスタン西部のヘラート県を大きな地震が襲い多くの家屋が倒壊しました。CWS Japanは被災者に対して、安心・安全に過ごせるためのテントと、当座の食料と生活必需品を購入するための現金を配布しました。

家屋や家財の多くを失ったが、配布したテントの中で安心して生活を再開することができるようになった。@CWSA



- 成果**
- ・地震により住む家を失った被災者170世帯を対象に、7名までが安心して住める大型テントを提供
 - ・家屋と一緒に失った家財を揃えたり、当座の食料を購入するために必要な現金を3ヶ月にわたり提供

comment 緊急性が高く、現地で品薄であった質の高いテントは、現物で配布しました。一方で、現地の流通は安定していたので、被災した世帯ごとに異なるニーズや事情に鑑み、柔軟に必要なものを購入できる現金を配布しました。異なる支援方法を組み合わせて、効率的かつ効果的な緊急支援ができました。

担当：G.I

13 in アフガニスタン

食料危機に対する支援

事業概要 女性に対する食料安全保障および生計改善を目指す

アフガニスタン・ナンガルハル県における女性に対する食料安全保障および生計改善を目的としたキャッシュ配布および養鶏支援を実施しました。

キャッシュ支援および養鶏パッケージの受給により、裨益者家族は息子に学習を再開させることができた。@CWSA



- 成果**
- ・2023年12月までに直接裨益者237世帯(男性841人、女性863人)に対し、キャッシュ支援及び養鶏管理に関する研修・養鶏パッケージ(雌鶏27羽・雄鶏3羽・飼料150Kg・薬剤)を支給

comment 女性世帯主を中心とした脆弱層の食料安全保障が短期的に改善されただけでなく、持続的な収入源の確立に成功しました。これにより、生活の質の向上と安定に大きく貢献しました。

担当：Y.H

そのほかの活動

人道支援基準の作成・普及

「スフィア基準」をはじめとした人道支援の国際基準の日本での普及に務めました。通常の研修の実施に加え、2023年12月にはトレーナー研修を行い、新たな人材を育成しました。加えて2024年3月に改訂された「人道支援の必須基準(CHS)」の翻訳にいち早く着手し、2024年8月に発行しました。

NPOなどの能力強化支援事業

日本における性的搾取・暴行・ハラスメントからの保護(PSEAH)ワーキンググループにおいて引き続き中心的役割を果たしました。また、2023年度に立ち上がった緊急人道支援学会や国内外のイベントや大学での講演を通じて、現在そして将来的に人道支援や防災に携わる人材の育成に寄与することができました。

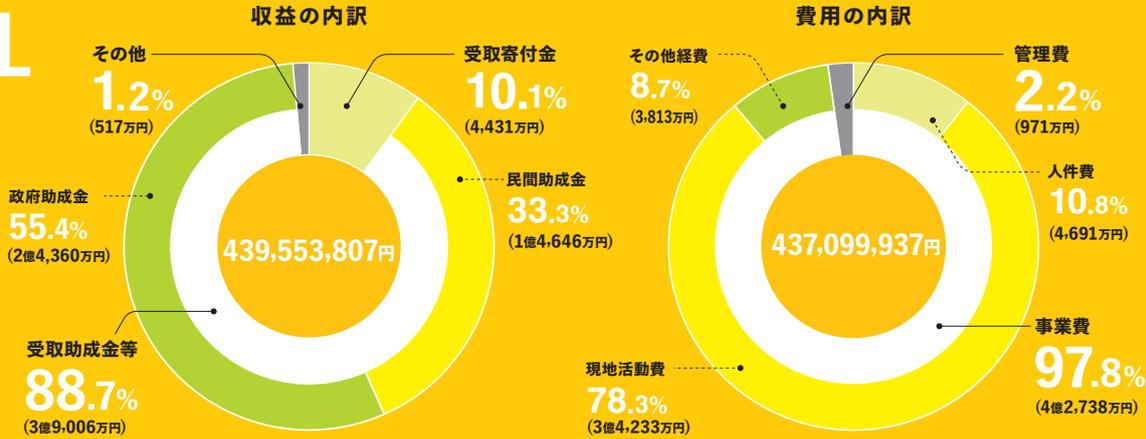
それぞれの事業は以下の団体の資金協力、または助成プログラムのもと実施しています。

- (1)(2)(3)(4)(12)(13)ジャパン・プラットフォーム(JPF) / (5)赤い羽根共同募金 / (6)ブリジストンBSmile募金 / (7)(8)外務省(日本NGO連携無償資金協力) / (10)ACT Japan Forum / (11)ELRHA

FINANCIAL REPORT

会計報告

2023年7月1日～
2024年6月30日



参加・支援の仕方

CWS Japanの活動に参加してみませんか？

CWS Japanの活動は、皆さまのご参加、ご支援によって支えられています。寄付以外にも、ボランティアやインターンなど、ご関心やご都合に合う形で参加してみませんか？

寄付で参加する

皆さまからいただいたご寄付は、主に活動地における事業費として有効に活用し、ご寄付額の最大10%をCWS Japanの管理運営費などに使わせていただきます。お気持ちにあった形でご協力いただけましたら幸いです。CWS Japanへのご寄付は、寄附金控除の対象となります。

クレジットカード

QRコードから必要な情報をご入力下さい。



銀行振込

銀行名:三菱UFJ銀行
支店名:神田支店(331)
口座種類・口座番号:普通 0333754
口座名義:特定非営利活動法人CWS Japan
カナ:トクヒシーダブリュエスジャパン

ゆうちょ銀行振込

郵便振替口座名: 特定非営利活動法人 CWSJapan
(トクヒ)シーダブリュエス ジャパン
口座記号番号: 00160-7-486854

銀行からの振込のとき
店名: 〇一九(ゼロイチキュー)
店番: 019
当座預金: 0486854

※銀行振込・ゆうちょ振込の際、通信欄にemailアドレスと、ご希望の用途もありましたらご記入ください。

ボランティア・インターンとして活動する

学生インターン、社会人プロボノ、ボランティアなどで活動することについて興味がある方は、まずは気軽にお問い合わせください。

モノで支援する

ご自宅に眠っているブランド品や貴金属など、ご不要になったモノの提供を通してCWS Japanを支援することができます。

[ご支援されたい方はこちら](#)



団体概要

法人名: 特定非営利活動法人CWS Japan

住所: 〒169-0051

東京都新宿区西早稲田2-3-18 日本キリスト教会館25号室

設立: 2011年3月

認定NPO法人格取得: 2023年4月

職員 職員10名(インターン含まず)

※2024年9月末時点

理事 ※2024年9月27日から新体制となりました。★新任

小海光 (公益財団法人ウエスレー財団 代表理事)
龍信之助 (医療法人RMDCC 理事長)
田島誠 (特定非営利活動法人環境エネルギー政策研究所 理事・特任研究員)
リーバーク ユーザリン (Church World Service Vice President Programs)
藤守義光 (日本キリスト教協議会 総務)★
小美野剛 (特定非営利活動法人CWS Japan 事務局長)
元川士郎 (監事)
小松田貞利 (監事)

表紙写真説明・・・2024年5月22日パキスタン、シンド州のミルツォカルロ村(Mirzo Kalro)で撮影 洪水被害を受けた畑の土壌を確認している様子

FSC®森林認証紙、ノンVOCインキ(石油系溶剤0%)を使用し、再生可能エネルギー100%で印刷しています。



お問い合わせ先

寄付、参加の方法などお気軽にお問い合わせください

03-6457-6840

public@cwsjapan.jp

CWS Japan お問い合わせ 検索

<https://www.cwsjapan.org/>

